



批評と紹介

滿洲國の道路と自動車

中川正左

古來支那の主要道路は、何れも首都を起點として、各地に放射せられたものが多く、歴朝首都の變更により、道路も亦幾度か變遷したのである、清朝に於けるものは、首都北京を中心として四方に通じ、之を官馬大路又は官路と略稱し、當時總延長三千軒以上に及んだと謂はれて居る、其の他は各省の省城から官路の岐路として、地方主要都市に通ずるものを大路と云ひ、各地方村落間に在つて、官路及大路を連絡するものを小路と稱して居たのである。

滿洲に於ても、前記の官路大路等古くから存したのであ

るが、官路は多く官用を辨ずる爲めに設けられ、驛站たるに止つて、一般行旅には便宜を與ふるものは甚だ尠かつたのである。鐵路開通前に於ける滿洲の交通の中心は奉天、吉林であつて齊々哈爾、寧古塔之に次ぎ、此處を中心に、主要道路が放射されて居たのである即ち、

(イ) 奉天を中心とする通路

- 1 奉天——山海關
- 2 奉天——九連城
- 3 奉天——金州

4 奉天——開原——吉林

5 奉天——新京——吉林

(B) 吉林を中心とする道路

6 吉林——寧古塔

7 吉林——齊々哈爾——愛琿

8 吉林——琿春

(C) 齊々哈爾及寧古塔を中心とする道路

9 齊々哈爾——三姓

10 寧古塔——三姓

11 寧古塔——露嶺

(1) 奉天より山海關に至る道路

之は全長約四百九十軒で、北京奉天間の官路の一部である、此の道路は頗る廣大で、道幅は百米兩側に溝を掘り、楊樹を並植した、但し久しい間修理をしないので崩壊して辛じて一車を通ずるといふ箇所も少くない。唯だ沿道客店は庭が頗る廣く、車輛十數輛馬數十頭を宿せしむるに足るものがあり、又沿道中巨流河より中前所に至る間は約三

十軒毎に八旗兵の駐防所が置かれてあつた。

(2) 奉天より九連城(朝鮮境)に至る道路

全長約三百五十軒經過地は沙河、張臺子、遼陽、湯河沿、甜水站、連山關、鳳凰城、高麗門、湯山城等で沿道に丘陵起伏して山路多く殊に遼陽鳳凰城間は最も峻嶒である。

(3) 奉天より金州に至る道路

全長約五百七十軒で沙河、遼陽、海城、營口、蓋平、熊岳城、復州、金州を經過する、奉天より營口に至る間は遼河に合する諸河流を越え、平地と山地との分界を走つて居る、營口より金州に至る間は渤海の東海岸に沿つて近傍は産鹽地であるから運鹽の爲車輛の往來頻繁を極め約三軒毎には必ず客舎の設備があつた。

(4) 奉天より開原經由吉林に至る道路

全長約五百軒經過地は道嶺、開原、蓮花街、双陽、寬登站、等である、此の道路は奉天山海關間の道路に次いで、沿道は驛站の車馬客舎よく備はり、盛京吉林兩省の省界附近の山道を除けば一般に平坦であつた。

(5) 奉天より新京經由吉林に至る道路

全長約四百六十軒、此の道路は柳邊墻の内外に沿ひ、沿道は沃野豊饒且つ殷富な市街が多かつたので、行旅頻繁で車馬、客店の便を欠かない、黒龍江省に至る物資は概ね此道路によつて運ばれた、新京より吉林に至る間には道路が數線あるが、皆山間の小蹊で車行に便ならず、行旅は此の道路に由るを普通とした。

(6) 吉林より寧古塔に至る道路約四百十軒

(7) 吉林より齊々哈爾經由愛璋に至る道路約千百九十軒

(8) 吉林より琿春に至る道路全長約六百六十軒

以上三道路の内(7)は松花江の右岸より嫩江の左岸に沿ひ平坦な處があるも其他は大體山道で匪賊の出沒常なき有様である。

(9) 齊々哈爾より三姓に至る道路全長約七百軒で道路は概ね平坦で結氷の候は商買車馬の往來多く客舎の如き比較的完備し道路も粗悪ではなかつた。

(10) 寧古塔より三姓に至る道路全長約三百七十軒

此道路は軍道で千八百八十一年伊犁事件の時開鑿したものである。

(11) 寧古塔より露領に至る道路全長約三百三十軒

此道路は東方浦鹽に至るものであつて、一八八〇年に創設し交通は極めて少ない道路である。

滿蒙に於ける道路は一般に粗悪であつて、奉天より山海關に至る官路は道幅約百米であつたが其の他の官路は普通六米、大路は四米、小路は道幅僅かに五六呎以内であつた。而して支那一般の風習として開路以來改修を行はないから大路の大道ですら凹凸が甚しく歩行不便の箇所が多かつたのである。殊に道路の修理は官憲で之を爲すものなく、何れも沿路住民の献金によつて行はれたる爲め、自然改修せられず放任せられ勝であつたのである。

滿蒙に於ける道路の特殊な性質は、古來季節によりて道路の狀態著しく變じ其の利用も亦季節によりて異るといふことである。即ち十一月より翌年三月に至る冬季五ヶ月間

は路面凍結し江河は結氷して居るので一年の交通運輸は、此の季節に行はるゝのである。之に反して春季、四月の候となり、解氷期となれば、道路は忽ち破壊し。六、七、八月の雨期には泥濘轍を埋め、河川は増水し氾濫して馬車の交通すら困難となるのである。而して九月の乾燥期に入れば交通は容易となり車馬の往來が再び頻繁となるのである。

滿洲國の道路政策 滿洲國にては治安維持並産業開發の爲めに道路建設の必要を痛感し、十年間に約六萬料の道路を新設又は改良すると云ふ計畫を樹て、差當り大同二年度に於て五千料の道路を開設せんとしたのである、而して道路と國道、省道、縣道に區分し、夏冬自由に自動車を以て鐵道並各地間の連絡を行ふ爲め、國道局を設置し、新京を中心に大都市相互間を結び、乃至は又此處より分岐放射せしむることゝして居る、而して新京吉林間の道路は匪賊平定の關係上最も急いで居ると云ふことである。國道の建設費は大體一料當り二千圓乃至四千圓の程度であつて、差向き千五百萬圓を國道建設費に支出する見込である、又各道

路に附隨する橋梁は、萬止むを得ざる場合の外、之を架設せざることにした。これは滿洲の特長として、雨降り後數時間を経過すると河水が涸れて河床通行に差支なきのみならず、現在各河床は大低附近人家の屋根より高いから、工事は困難であるからである。全國の道路網は、主として國內の百八十四縣を結びつけ、更に之を各驛に連絡するのを目的とするのである。

道路工事には主として歸順兵や附近の農民を使役するのが一番宜しいのである、然るに農繁期には勞働に著しき不足を來たし、差支を生ずることが少くないので、本年春自動車道路建設機五臺を米國より取寄せ使用中であるが、人間の勞働に比べて便利が多いとの事である、現在主要都市を中心とする既設の幹線道路料程は次の通りである。

(イ) 奉天を中心とする道路

錦州經由至山海關 約四百九十料

遼陽經由至九連城 同三百五十料

遼陽經由至金州 同五百七十料

開原經由至吉林 同五百籽

新京經由至吉林 四百六十籽

(ロ) 吉林を中心とする道路

額穆經由至寧古塔 約四百十籽

齊々哈爾經由至愛琿 約千〇九十籽

延吉經由至琿春 約六百六十籽

(ハ) 齊々哈爾及寧古塔を中心とする道路

自齊々哈爾至三姓 約七百籽

自寧古塔至三姓 約三百七十籽

自寧古塔至露嶺 約三百十籽

國道網の竣工に伴ひ自動車業の發達を敏速ならしむることを豫期して、滿洲國交通部では左記の方針に基いて之が統制を期して居るのである。

(イ) 自動車運輸事業は近く公布さるべき自動車交通事業法及附屬法によりて之を統制する。

(ロ) 國有鐵道に直接利害關係を有する路線。及び國家に於て治安軍事上必要と認めたる路線を除く路線の自

動車運輸事業は之を民營とする。

(ハ) 一路線一營業主義を斷行する爲め、一路線に數人の營業者ある場合は共同經營又は事業の合同を爲さしむる。

(ニ) 竣工せる國道又は專用道路を使用營業を爲さんとする請願に對しては長期の免許を爲し。又在來の道路を使用し冬期營業を爲さむとする請願に對して冬期間の短期免許をする。

自動車運輸事業の現狀

各省は舊政權時代既に自動車運輸事業法を定め一定の保證金を提示し、二名以上の有資産者の保證を有する民國人の請願に對しては、殆んど無制限に營業許可をしたが、省政府は自動車と離るべからざる道路に關しては、何等の意を用ひず、放任主義を採りたる爲め、不得已地方人民及自動車運輸事業者は、農家閑散期を利用し、小額の費用と勞力とを分擔し辛ふじて車馬の通行に堪え得る補修工事を持續して來たのであるが、滿蒙各地の市外道路の構造土質は

共に不良で、降雨期に入りては、泥濘膝を没する濕地と化するを以て、自動車事業は其の期間は營業を休止し、秋に入るのを待ち、營業を開始するのが恒例である。斯の如き道路の不完全な状態が、事業經營の確實性を阻害したる爲め、事業者は年と共に、其の敷遞減の状态にあつた。大同元年に滿洲國が建設されて、國道局をして道路の新設改良を爲さしめ以て、地方産業開發の素因たらしむる方針を立て、既に國道局に於て今春早々工事に着手以後竣工を急ぎ居る現状は在來の自動車事業の退嬰状態を打開する最良の材料と爲り、日滿企業家を頗に刺戟し本業經營に志し、免許出願するもの本年七月迄に三十九條に及んだのである。

一 現營業者現在調

- イ、營業者數 一七四名
- ロ、使用車數 四四二輛
- ハ、許可總籽程 二二三、九二七籽
- ニ、互長總籽程 九、〇四一籽
- ホ、資本總額 一、九七五、八〇九

二 出願者現在調

- イ、出願者數 三九籽
- ロ、出願路線總延長 二九、三六六籽
- ハ、投資最大額 五、〇〇〇、〇〇〇元

鐵路總局に於て附帶事業として、現在營業しつつあるものは自動車輸送を第一とするのである、而して自動車營業並計畫は次の如くである。

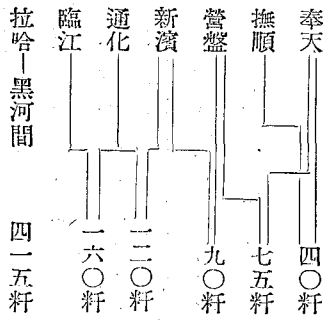
- 一 現營業區間は目下の處熱河のみである即ち
 - 北票—朝陽間五十籽 旅客運賃 國幣 二・五〇
 - 朝陽—凌源間百二十籽 " " 六・〇〇
- 現在使用車輛數
 - バス 十六人乗 二十五臺
 - トラック 二廬積 三十臺

二 熱河關係計畫線

- 1、凌源—承德線
- 2、凌源線上の一點より赤峰に至る線
- 三 調査中の路線

區間

料程



乗合自動車の運行は匪賊の襲撃に備ふる爲め、五臺の自動車が一群を爲して發車することにし、車内には機關銃を備へて居るのである、それで三日以前より座席を豫約するに非ざれば、到底豫定の旅行を爲すを得ないといふ滿員盛況である。

又バスの運賃は一杆國幣五錢であるから之を鐵道省線の方と比較すると約二倍の高い運賃なのである。

終りに自動車工業は統制さるべき工場の一であるが、過般熱河に於て軍部の試験を爲せしに邦製の自動車は僅々三

ヶ月にして修繕を要し耐久性に乏しいと云ふ欠點があるといふ吾人は滿洲の悪しき道路に於て自由に利用され得るが如き自動車及部分品の設計技術と價格とにつき自動車工業當事者が充分なる調査と奮勵とを爲すことが目下の急務であらふかと思ふ自動車輸送は積極的に鐵道と相俟つて交通運輸の發達を計り、又鐵道の恩恵に均霑し得ざる、地方住民に利便を供與するのであるが、消極的には無用の競争に依りて生ずる資本の二重投下を防止する爲め鐵道敷設の先驅或は濶踏みと成るべきものであらふと思ふ。

× × × × ×

× × × × ×